

## 平成 25 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

多文化社会に生きるリージョナル（地域の）リーダーからグローバルリーダー育成へ。

1. 学ぶ力をつける・・・授業・部活動・地域連携・高大連携・家庭を通して

<学び合う桜塚>

- ・ 自ら学ぶという主体性、学び合うという「互恵（互敬）関係」を学校生活・家庭生活全般で実践していく。
- ・ 授業を通じて生徒は教師から学び、教師も生徒から学ぶこと大。教師同士も学びあうことで生徒の成長に寄与する。
- ・ 部活動を通じて、生徒・教師それぞれが、専門家や他校から学ぶ姿勢を持つことで「学び合う」。
- ・ 地域や大学等、外の社会から学ぶ姿勢を持ち、同好の友人とも「学び合う」。
- ・ 家庭でも、子どもと保護者が互いに「学び合う」姿勢でコミュニケーションの力を育成する。

2. 人間力をつける・・・あいさつ・礼儀・そうぞう（想像・創造）力・勇気・挑戦・協働・互恵・互敬・多文化共生

<人間力育成の桜塚>

- ・ 桜塚生が持つ美質（時間厳守等の規範意識・温かさ・優しさを併せ持つ）をよりよく生きる力に
- ・ 挑戦することで能力を発見し、そうぞう性豊かな人生に。現状を切り開く力ある生徒の育成。
- ・ 体験（踏み出す勇気）が自己実現につながり、進路実現につながる。体と心で受けとめる将来展望を。
- ・ 授業や体験活動で学ぶ様々な文化を咀嚼し、理解しようとする心を養う。

## 2 中期的目標

多文化社会に生きるリージョナル（地域の）リーダーからグローバルリーダー育成のために

1. 学ぶ力をつける

- （1）正課授業の集中度を高め、生徒の授業満足度が教員の自己評価に限りなく近づくよう研鑽努力する。
- （2）大職員室を活用し、訪れた生徒が目的教科以外の教員の指導も受けやすい環境をつくる。
- （3）実力テストの見直しの効果を検証し、進路意欲の向上を図る。
- （4）基礎的学力の強化 1学期終了段階で各教科（特に英語・数学・国語）のやり直し補講等をおこない、2学期以降の随時・個別の指導や生徒の家庭学習活動を支援・強化する。
- （5）放課後講習の組織化と拡大  
これまで17時45分完全下校としていたが、自習室を整備したことを踏まえ、定時制と協議のうえ、下校時刻以降の学習機会を希望者に確保していく。
- （6）土曜日講習や長期休業期間講習の実施。
- （7）（4）（5）（6）に加えて更なるカリキュラムの検証検討を鋭意行い、平成26年度には例えば朝学（仮称）等を導入し基礎的・基本的な学力の確実な定着充実に努める。

※ 学校教育自己診断における生徒向け設問「授業はわかりやすく楽しい」に対する肯定的評価の毎年10%上昇をめざし、現在の51%を3年後には80%にする。

2. 人間力をつける

- （1）人間関係構築の第一歩として、あいさつがさらにしっかりと行われる学校をめざし、「あいさつ運動」を実施する。
- （2）大職員室を活用して教員と生徒の密なコミュニケーションを確立する。（始業前・業間・昼休み・放課後の相談及び質問）
- （3）正課授業や部活動その他の機会において地域連携・地域貢献活動・国際交流活動を行うことで異世代・異文化との交流に生徒が参画し、教員は活動を支援・促進する
- （4）全・定併置校の特色を活かし、互いの協力関係を密にする。全・定協働のために立ち上げたプロジェクトチームの働きを活発にし、有効有意な関係を構築する。
- （5）（4）の進展に合わせて、自治会活動の全・定連携をめざし、全定生徒の交流行事を立案実施する。

※学校教育自己診断におけるそれぞれの評価活動を点検し、生徒の人間力を高める計画の立案と実行を図る。  
（進路相談・教育相談への生徒評価及び自分の成長を実感する項目で、5%上昇をめざす）

3. 地域の信頼される学校としての桜塚を促進・広報する

- （1）オール桜塚の桜塚人材バンクを活用し、OB、地域の有志と連携した事業を展開する。
- （2）多文化社会を実感・体験するため国際理解教育や人権教育活動への積極的な参画を促進する。
- （3）豊中市役所をはじめとする公的機関、団体との連携をさらに充実させ、生徒の社会経験知の向上を図る。
- （4）平成24年度に岩手県立大槌高等学校と締結した「さくら協定」に係る事業を発展させ、東日本大震災の被災地に寄り添い連携する態度のさらなる涵養を図り、持続的な支援や交流を行う。
- （5）HPを更に見やすく、魅力的なものにし、更新を頻繁に行う。

※学校教育自己診断において生徒の自己評価の低かった地域活動をさらに周知し、生徒の力に替え、地域の信頼の一層の獲得を図る。評価の毎年10%上昇をめざし、現在の39%を3年後には70%にする。

4. グローバルリーダーの育成

- （1）上記3を基本に国際社会で通用する人材を育成するため、地域の伝統や文化に対する理解はもとより、異文化や習慣の違いを尊重する精神を育む為に国際交流を積極的に進める。
- （2）国際的なコミュニケーション能力を育成するために、国際的共通語としての英語のコミュニケーション能力の育成に努める。その為に、海外語学研修、国際交流に努め生徒の国際的な視野を育むとともに、授業に言語活動を積極的に取り入れ、英検やTOEFL等の資格取得を進めることに取り組む。

※まずは英語圏への海外語学研修を実施し、将来的にはアジア圏も視野に入れ海外研修の実施に向けて検討する。

5. 学校の組織力の向上と活性化

- （1）PDCAサイクルにより学校経営を確立し、組織力の向上を図り、学校運営における組織的な取り組みを更に進める。  
ア 運営委員会のメンバーはそれぞれの所管する組織の立場にこだわらず、常に学校全体の立場から意見交換を行い、本校の課題に対する基本的な方向性を確立することに寄与する。  
イ 「学校組織運営に関する指針」に基づく学校運営を行うために、学校運営の基盤となる種々の内規等の整理・改善を行う。  
ウ 今年度から実施する新カリキュラムを十分に検証する為に運営委員会や教育課程委員会等で検討し、状況によっては新しい委員会等を設置し改善する。  
エ 様々な分掌・委員会の活性化に努め、活動を活発に行う。学校の様々な状況によっては、必要に応じてスクラップ・アンド・ビルドする。

※内規等諸規定の整理と改善を行う。

※今年度から実施の新カリキュラムのシラバスの更なる充実に努め、状況によっては新しい科目等を導入することも視野に入れて改善に努める

6. 不祥事発生の未然防止を図るために、一層の取り組みを進める。

- （1）不祥事防止に関する校内研修を実施し、問題意識を共有する。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔平成 年 月実施分〕	学校協議会からの意見
<p><b>【総括】</b> 前年度と同じ質問項目の総数 112 のうち 87 について肯定的評価が増加した。(保護者 22 のうち 18、生徒 40 のうち 35、教職員 50 のうち 34) 校長の学校経営計画を教職員が理解(81.8%)し実践しようとする中で組織的な学校運営が機能してきていることによる。</p> <p><b>【学習指導等】</b> 今年度は11月を「授業改善月間」と称し、教員による相互授業参観を自教科と他教科の2度行うことを必須とするなど、授業改善に係る取り組みについて教科を中心に組織的に行うようにした。「他の先生が授業を見学に来ることがある」の生徒回答 77.9%) その結果、授業に関する8項目の質問について肯定的評価が全て上昇し、なかでも「授業はわかりやすい」は、+24%の大幅な上昇となった。</p> <p><b>【生徒指導等】</b> 今年度教育相談委員長を担任外から選出し機動的に動けるよう体制を強化したが、「気軽に相談できる先生がいる」は前年度とほぼ同様の数値(43.4%)のままであった。教員全体のカウンセリングマインドスキルを高めることが喫緊の課題であり、改善のために更に効果的な職員研修を企画立案する必要がある。</p> <p><b>【地域連携等】</b> 豊中市や岡町商店街との各種連携事業や東日本大震災の被災地支援ボランティアで始まった岩手県立大槌高等学校との交流に関する評価が高まった。(生徒+32%、保護者+14%、教職員+8%) 生徒の評価が飛躍的に高まったのは、自治会生徒が主体となってイベントを企画・実施し、多くの生徒が参加したことによる。</p> <p><b>【学校運営】</b> ・生徒の学ぶ力を高めるために「海外語学研修」や「朝学」導入を校長が提唱し、実施に向けて組織的に進めてきたことを反映し、「学校運営に校長のリーダーシップが発揮されている」と回答した教職員が72.7%であった。また服務についての職員研修を実施することにより、79.5%の教職員が「服務規律への自覚が高い」と考え、74.4%の生徒が「先生は学校の決まりや約束ごとを守っている」と評価した。 ・ICT機器が整備されているにも関わらず、それらの授業における活用は、生徒、教員共に54.5%の評価に留まった。授業における生徒の興味関心を高め理解を進めるために、ICTスキルの高い教員によるICTを活用した授業計画を他の教員に周知しその見学を行うなどして、ICT活用の利点を多くの教員が持つようにしていくことが必要である。 ・生徒の読書活動については、「学校として読書指導について積極的に取り組んでいる」22.7% 「図書館が生徒に活用されている」34.1% のように低い評価であった。来年度から実施する「朝学」のコンテンツのひとつに「読書」をおくことで生徒の読書習慣を確立させ、「読解力」や「考える力」「豊かな感受性」を育ませる必要がある。そのために図書館運営の環境整備・体制整備を組織を挙げて行い、「生徒の読書活動の活性化」「図書館利用の活発化」を実現させる必要がある。</p>	<p>第1回(7/3)</p> <p>○平成24年度学校評価について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・商店街との連携事業による商店街の活性化はすばらしく、花が咲いたようだ。高く評価したい。さらなる継続発展を願う。</li> <li>・生徒のコミュニケーション力をつける取組みをもっと進めるべきである。</li> <li>・生徒に広い視野を持たせることが大切で、そのためにキャリア教育を推進されたい。</li> </ul> <p>○平成25年度学校経営計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自習室の整備を行ったことは評価する。同窓会館も同じ目的に使用して構わない。</li> <li>・不登校生徒への対応としてカウンセリングマインドを高め、早めの対策を行うべきである。</li> <li>・グローバルリーダー育成のために英検の導入を図る等英語教育の強化に取り組まされたい。</li> <li>・部活動のさらなる活性化のために、かつての豊桜戦(桜塚VS豊中)のような対抗戦をしてはどうか。</li> </ul> <p>第2回(12/3)</p> <p>○海外語学研修について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・募集定員を超える応募があったことを評価する。実施に向けてPTAや同窓会として支援する。</li> </ul> <p>○平成26年度より実施するモジュール授業「朝学」について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校が生徒の学ぶ力を伸ばそうとすることを評価する。生徒が自ら積極的に取り組み、結果として生徒にしっかりと力を付けるものとしてもらいたい。ただし、桜塚が大事にしているクラブ活動における「朝練」にあまり影響を与えない配慮をしてもらいたい。</li> </ul> <p>○授業改善月間について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の授業力向上のために教員相互の授業参観を実施することを中心とした授業改善の取組みを行うことを評価する。なお、小中学校では研究授業をしているが可能ならば同様の取組みを行うことが望ましい。</li> </ul> <p>第3回(1/28)</p> <p>○今年度の学校教育自己診断結果を踏まえて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長年みてきたが、これまでの桜塚の課題がほぼ解消されてきたように思う。先生方の努力を高く評価する。</li> <li>・今回評価が十分でなかった「生徒の読書活動の活性化」「図書館利用の活発化」について、環境整備・体制整備を行い、改善を図られたい。</li> </ul> <p>○地域連携について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地元に対し十分な貢献をしている。今後も活発な交流や連携の展開を期待したいが、それにより生徒が消耗することのないようバランスのとれた交流・連携を行っていただきたい。</li> </ul> <p>○平成26年度からの「朝学」(モジュール授業)について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度の第1回学校協議会でどのように実施しているのか具体的内容を報告されたい。</li> <li>・効果の検証をしていただきたい。その結果によって必要な改善・工夫を加え、さらなる効果を生んでいただきたい。成功を期待する。</li> </ul> <p>○平成26年度学校経営計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全定併置校の特徴を生徒の育ちに生かせるような計画の策定を図られたい。</li> <li>・現在進行させている組織の効率化及び機動性の向上については、継続して推進すべきである。</li> </ul>

## 府立桜塚高等学校

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学力	(1) 授業満足度の向上 ア 授業改善のための諸施策を行う イ 自習室の整備 ウ 土曜日講習及び長期休業期間の集中学習会(仮称)の実施	ア 教科ごとに研究授業計画や教員相互の授業見学の実施計画を作り、実施する。 ・平成24年度学校教育自己診断において生徒・保護者から出された教科への要望について授業委員会が整理し、改善策を担当教科へ要請する。 ・授業委員会が中心になり授業アンケートを年2回(7月、12月)実施する。1回目を課題把握、2回目を成果検証と位置づけ授業改善を推進する。 イ 自習室を2か所整備し、そのうち1か所は定時制との協議上で下校時間を超えた利用を可能とする。 ウ 隔週土曜日に各教科(特に国語・数学・英語)の講習を検討し実施する。 ・夏季や冬季の長期休業時に集中学習会(仮称)を計画し実施する。	ア 生徒向け学校教育自己診断結果における授業満足度10%向上(平成24年度51%) ・授業アンケートの1回目と2回目の比較において全項目での上昇 イ 生徒アンケートを実施(満足度75%以上) ウ 生徒アンケートを実施(満足度75%以上) ・センター試験の各科目平均点上昇	ア 11月を「授業改善月間」と位置づけ同じ教科及び他教科の授業をそれぞれ見学に行くことを目標に教員相互の授業見学を実施。生徒向け学校教育自己診断結果によると、関連項目が前年度比19%向上し、78%であった。学校教育自己診断における授業満足度の肯定的評価が前年度に比して24%向上し75%となった。(◎) ・授業アンケートの1回目と2回目の比較において全項目で上昇した。(◎) イ 自習室を2か所整備し、定時制との協議により1か所は午後7時まで利用可能とした。生徒アンケートの結果、生徒満足度は92%であった。(◎) ウ 3年生を中心に実施してきた。生徒アンケートの結果、生徒満足度は91%であった。(◎) ・センター試験英数国の全国平均と本校平均点との差で比較すると3科目が上昇し2科目が減少した。(△)
2 人間力	(1) コミュニケーションの深化 ア 教育相談体制の充実 イ 「あいさつ運動」の推進及び地域貢献活動等への参画 ウ 定時制との互恵関係の充実	ア 相談スペースの整備を行い、生徒相談機能を高める。 ・カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導法をテーマにした職員研修等を実施する。 イ 学校全体でさらにあいさつが活発になされるよう、啓発を推進する。また、様々な機会を捉えて地域貢献活動等に積極的に参加する。 ウ 教職員が協力することで同じ施設を共有する仲間意識や互いを思いやりあう意識を養っていく。(全定プロジェクトチームの働きを活発にし、有効有意な関係を構築する。) ・例えば、自治会活動の全定連携も視野に入れ、全定生徒の交流行事等も検討する。	ア 学校教育自己診断結果における教育相談に関連した項目での肯定率10%向上。(平成24年度43%) イ 学校教育自己診断結果における関連項目での肯定率10%向上。(平成24年度39%) ウ 教職員向け学校教育自己診断に定時制との関係に関する質問を設け、肯定的回答75%以上をめざす。	ア 大職員室を訪れる生徒は増加したし職員研修も実施したが、学校教育自己診断結果関連項目については、前年度比0.1%増とほぼ前年度と変化がなかった。(△) イ 朝当番の教員や生活指導部の教員と共に、可能な限り自ら毎朝下足ロッカー等で生徒を迎え「あいさつ」をした。また、地域貢献活動には延べ258名の生徒が参加し、その満足度は生徒アンケートによると93.4%であった。学校教育自己診断関連項目での肯定的評価は前年度比32%向上し71%であった。(◎) ウ 学校教育自己診断関連項目は46%であったが、全定プロジェクトチームの代わりにより機動性の高い全定首席による打ち合わせを頻繁に行った。加えて、全定の教員による授業相互見学や全定共同消火訓練を実施するなど連携は十分に取れている。(○)
3 地域連携とグローバルリーダーの育成	(1) 多文化社会に生きるグローバルリーダー育成のために ア 国際理解と人権に係る豊中市各機関との連携 イ 大学等との連携 (2) オール桜塚体制構築のために ア オール桜塚支援体制(人材バンク) (3) HPの強化と充実	(1) ア 多文化社会に生きる力を育成する為に、豊中市等との連携を深め国際理解教育や人権教育活動への積極的な参画を推進する。 ・豊中市政策企画部、地域教育振興室、環境政策室、社会福祉協議会、危機管理室、国際交流協会等、豊中市各機関との連携事業を引続き推進する。 ・おかまち・まちづくり協議会、岡町・桜塚商業団体連合会との連携事業の継続 ・国際交流を積極的に推進する。 ・国際的共通語としての英語のコミュニケーション能力の育成に努める イ 大阪音楽大学との提携活動の継続発展 ・大阪大学、関西大学との連携活動の継続 ・キャリア教育と進路実現に繋がる新たな連携模索 (2) ア 桜塚高校人材バンクの充実と拡大 ・生徒、OB、教員が一体となった地域連携(例えば、枝垂れ桜の一般公開) (3) 生徒の活動や地域連携事業の取り組みなどを公開していく。加えて在校生や保護者、卒業生の利便性を高めていく。	ア 多文化社会に関わる講演・講習・協議会参加回数、生徒参画機会数、生徒参加人数(昨年比増) ・学校教育自己診断における関連項目で10%以上の上昇をめざす。(平成24年度39%) ・海外語学研修等を実施する。 ・英検やTOEFL等の資格取得を進める。 イ 連携事業数及びアンケート実施による生徒の満足度測定(75%以上) (2)ア 名簿掲載人数及び活用回数(昨年比増) (3) 更新回数。月に10回以上の更新を行う。学校教育自己診断の関連項目で10%以上の上昇をめざす。(平成24年度22%)	(1) ア 延べ185名の生徒が参加し、生徒アンケートの結果、生徒満足度は87%であった。(◎) ・生徒向け学校教育自己診断結果における関連項目で肯定的評価が32%向上し、71%となった。(◎) ・平成25年度の3月にアメリカ合衆国カリフォルニア州サンマテオ市周辺に、11日間の本校としては初めての海外語学研修を実施する。(◎) ・英検取得者は242名で内準2級以上が43名。漢検取得者は254名で内準2級以上が28名。(○) イ 大阪音楽大学との交流コンサートの実施、大阪大学、関西大学からの実習生の受け入れ等の連携を継続している。また、新たな連携先として京都嵯峨芸術大学、京都精華大学、神戸芸術工科大学からの出前授業・模擬授業を実施した。生徒アンケート結果による満足度は97%だった。(◎) (2) ア 同窓会との連携、卒業生による講演を行っている。名簿掲載人数は横ばいである。(○) (3) 広報チームが中心になり生徒の活動や地域連携事業の取り組みなどを公開してきた。ホームページに新たに校長室だよりを設置し情報発信を心掛けている。学校教育自己診断関連項目では生徒・教職員・保護者の平均で肯定的評価が2%向上。(○)
4 学校の組織力の向上と活性化	(1) PDCAサイクルによる学校経営の確立 ア 本校の課題に対する基本的な方向性を確立する イ 内規等の整理・改善 ウ 「新カリキュラムの検証」を行う エ 様々な分掌・委員会の活性化	ア 運営委員会のメンバーはそれぞれの所管する組織の立場にこだわらず、常に学校全体の立場から意見交換を行い、本校の課題に対する基本的な方向性を確立することに寄与する。 イ 学校運営の基盤となる種々の内規等の整理・改善を行う。 ウ 今年度から実施の新カリキュラムの検証に努める。 エ 様々な分掌・委員会の活性化に努め、活動を活発に行う。学校の様々な状況によっては、必要に応じてスクラップ・アンド・ビルドする。	ア 教員向け学校教育自己診断関連項目の肯定率60%以上 イ 内規等の整理と改善をできるだけ進める。 ウ 今年度から実施のシラバスの充実に努める。 エ 必要に応じてスクラップ・アンド・ビルドする。	ア 運営委員会のメンバーは常に学校全体の立場から意見交換を行い、校長の学校経営計画実現に向けて寄与している。学校教育自己診断関連項目は、48%だった。(○) イ 教務内規等整理・改善を実施した。校内人事に関しての内規等も整理・改善しているところである。(◎) ウ 生徒の学力を更に向上させるために、来年度から教育課程を改定し学校設定科目として、「朝学」を導入することになった。(◎) エ 活性化に努め、海外語学研修プロジェクトチーム及び朝学プロジェクトチームを新たに設置し活動を行った。また、校内人事調整委員会と教育方針検討委員会を廃するなど、スクラップ・アンド・ビルドを行った。(◎)